科目ナンバリング	G-LAS15 80021 LJ12　G-LAS15 80021 LJ13　G-LAS15 80021 LJ18						
授業科目名 <英訳>	インフォメーションデザイン論 Information Design			担当者所属 職名・氏名	情報学研究科 教授　伊藤　孝行 学術情報メディアセンター 教授　中村　裕一		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	複合領域系			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	水5	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（情報学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

どんなに価値のある情報も、人間に対して効果的に伝達できなければ、意味が無い。情報を効果的に伝達するには、伝えたい情報を構造化し、人間にとって理解しやすい形に表現する必要がある。本講義では、情報デザインとは何かについて述べると共に、多様なメディアによる情報表現の方法論について講述する。具体的には、情報の構造化、ことばのデザイン、インタラクションデザイン、情報可視化、集合知、社会シミュレーション、交渉・議論のデザイン、情報の理解と信頼性といった話題について講述する。

[到達目標]

情報デザインの概念の理解、および、情報デザインのための各種手法・技術について理解し自ら使用できることを到達目標とする。

[授業計画と内容]

情報の組織化・構造化（2回）　（伊藤）
集合知の情報デザイン（1回）　（伊藤）
社会制度と社会シミュレーションの情報デザイン（2回）　（伊藤）
交渉・議論の情報デザイン（1回）　（伊藤）
ビジョンとスタートアップの情報デザイン（2回）　（伊藤）
言語・広告の視点からの情報デザイン（2回）　（中村）
ユーザインタフェースとインタラクションのデザイン（3回）（中村）
情報の理解と信頼性（1回）　（中村）
フィードバック（1回）　（中村）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

情報デザインの概念の理解、および、情報デザインのための各種手法・技術について理解し自ら初歩的にでも使用できることを到達目標とする。

【成績評価の方法・基準】
以下を基準として評価する。
① 講義期間中に課す演習課題　30%程度
② 期末試験　60%程度
③ 授業への貢献（よい質問をすることなど）　10%程度

インフォメーションデザイン論(2)へ続く↓↓↓

インフォメーションデザイン論(2)

[教科書]

田中 克己, 黒橋 禎夫 (編集) 『情報デザイン』（共立出版）ISBN:4320006038

[参考書等]

（参考書）

下記「参考文献」参照。

[1] 渡辺保史著：情報デザイン入門　インターネット時代の表現術，平凡社，2001年
[2] 木村博之著：インフォグラフィックス　情報をデザインする視点と表現，誠文堂新光社，2010年
[3] 今泉容子著：映画の文法　日本映画のショット分析，彩流社，2004年
[4] D. A. ノーマン：誰のためのデザイン？―認知科学者のデザイン原論，新曜社，1990年
[5] B.J. フォッグ著，高良理・安藤知華共訳：実験心理学が教える人を動かすテクノロジ, 日経BP社, 2005年
[6] Stanford Persuasive Tech Lab Resource http://captology.stanford.edu/resources/
[7] エリック・リース：リーン・スタートアップ, 日経BP, 2012.
[8] 川喜多二郎：発想法 改版 - 創造性開発のために (中公新書), 2017

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容に関連するreading assignment、および、レポート課題を随時課す。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワー: 事前に担当教員にアポイントメントをとること

伊藤孝行
ito@i.kyoto-u.ac.jp
中村　裕一
yuichi@media.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。